

平成 26 年度 6 月議会 一般質問内容 (6/20)

6/20、6 月議会の一般質問を、70 分間、行わせて頂きました。以下質問項目です。

1.我が市の ICT 総合戦略について

「ICT スマートタウン宝塚」を目指して、ビッグデータ・オープンデータを活用し、様々な主体が「いつでも、どこでも、誰でも、なんでも」できる ICT 先進都市を是非目指してもらいたい。と早期の全庁的な ICT 総合戦略本部の設置を求めました。

2.市内道路政策と NTN (株) 宝塚製作所跡地利活用及び周辺道路の政策について

①市内道路政策について

阪神 7 市 1 町の中で、都市計画道路における、道路密度・整備率共に、宝塚市は最下位と道路事情が悪いこと、市民アンケート調査の中で、市民の不満は、①道路整備 ②行財政 ③土地活用 となっていることから、市内道路整備の必要性を訴えました。

②NTN (株) 宝塚製作所跡地の周辺道路の道路政策について

NTN 跡地の開発によって、県道西宮宝塚線及び市役所前交差点の朝夕や土日の渋滞に更に影響を及ぼすだろうということは、十分予測されること、栄町・南口・中洲、伊子志まで渋滞を引き起こすことが多いことから、都市計画道路の伊子志旭町線の早期着工をしなければならないことを訴えました。新名神・伊子志旭町線が完成すれば、随分市内の道路状態は改善されると思います。



③大型多目的ホールの計画について

ガーデンフィールズを含め、土地取得に大きな投資をしたところですので、今すぐホール建設計画を織込ということではありませんが、将来的にそのような展望があるなら、NTN 跡地に場所の確保だけはしておくべきことを訴えました。なお、NTN 跡地に水道局庁舎を建設することに反対を致しました。

3.財政改革について

①固定資産台帳作成について ②今こそ発生主義・複式簿記の導入準備を

これまで、繰り返し、固定資産台帳の整備、発生主義、複式簿記の導入を訴えてきましたが、ようやく前に進むことになりました。公会計の概念が変わるため、職員研修の実施を訴えました。

③市職員給与削減に対する市長の決断について

超高齢社会を乗り切り、都市の品格を高め、住みやすいまちにしていけるために、様々な財政需要を抱えています。行財政改革・給与削減は避けて通れません。現在行われている 12 月までの給与削減措置を、1 月以降どうするのか問い質しました。

④ふるさと納税・ふるさと寄付について

市内市外問わず、寄付が集まりやすいよう、ふるさとまちづくり基金の改正も含めて、工夫する旨訴えました。それと、市外に住む職員の皆さんがふるさと納税を率先してすべき旨訴えました。

4.市民自治への道筋について

①市民委員の無作為抽出について

市民アンケートでも、市民の 6 割以上の方は、「市に意見を持っているが、意見を述べたことはない」という結果が出ている中、特定の人に頼るまちづくりではなく、広く市民の意見を聞き、まちづくりにできるだけ多くの人に関わっていただくことが必要であること。

ICT の活用によって、双方向で市民の声を聞くことがしやすくなると思うので、改めて、ICT の総合戦略本部を立ち上げるべき旨訴えました。

②有償ボランティア制度について

これまで、元気なシニアに、市内で働いてもらえる場所を早急に作らなければならない旨を申し上げてきましたが、無償ボランティアに期待しすぎると、すそ野は拡大していかないので、労働とボランティアの境があいまいな中ではありますが、ハローワークやシルバー人材センター、NPO センター、ボランティア活動センターの独自の広報に頼らず、貴重な人材を、宝塚市内で貢献していただけるように、様々な働き方を整理し、ワンストップで市民に広報し、選択してもらえるよう、有償ボランティアを制度として作るべき旨訴えました。

一般質問は、宝塚市議会ホームページ宝塚市議会中継で動画配信中です。